

書誌第101号追

本州南・東岸水路誌

追補第5

令和4年（2022）12月16日発行



海上保安庁

本州南・東岸水路誌

追補第5

この追補は、令和2年3月刊行の本州南・東岸水路誌の記載事項を更新するもので、令和4年11月25日までに入手した資料を基に編集したものです。

追補は、更新情報を記載した「本文」と、それを検索するため、ページ番号等を記載した「索引」から構成されています。

「索引」については、更新箇所の表題や港名等を記載し、ページ番号順に並べています。

「本文」については、本追補の更新箇所は、灰色背景で赤色文字にて示しています。

【】で囲んだ内容は、削除や差し替えを行うことを意味しています。

図の挿入等によりページ内に収まらない場合は、水路誌本誌とのページ番号を整合させるため、追補においては、便宜的に枝番号を付しています。

令和4年12月16日

海上保安庁海洋情報部

注 意

海上保安庁は、各国が発布した諸法規、宣言、海図及び水路通報・航行警報並びに船舶等からの視認報告のうち、船舶交通の安全の確保と海洋環境の保全という観点から、航海の安全及び環境保全に影響を与える可能性のある情報については、水路通報及び航行警報により周知するほか、海上保安庁の海図その他の航海用刊行物にも掲載するようにしています。

これらの情報を利用するにあたっては、海上保安庁によるこれらの情報提供は、航海の安全等のための利用を目的としており、その内容は日本政府がこれらの諸法規、宣言等を承認したことを意味するものではない点に留意してください。

ページ	更新箇所(表題、港名等)	備考
11	航路	
12	航路標識	
14	水先人会	
30	AISによる船舶の自動識別	
68	八戸港	
71	八戸港	
77	宮古港	
96	気仙沼港	
100	女川港	
104	石巻湾	
106	石巻港	
107	石巻港	
110	仙台塩釜港	
123	小名浜港	
137	鹿島港	
209	横浜区	
210	横浜区	
308	名古屋港	
343	紀伊半島南東岸対景図	
348	梶取崎～潮岬	
349	串本港付近対景図	
355	田辺港	
356	田辺港、切目崎～日ノ御崎	
363	室戸岬～下竜頭岬	
368	高知港口対景図	
374	須崎港	
375	下田港	
380	清水港	
381	宿毛《スクモ》湾	
383	宿毛湾港	

指定海図 海上交通安全法第 44 条に基づき、航路及び規制事項を記載した海上交通安全法指定海図を刊行している。指定海図は書誌第 900 号「水路図誌目録」に記載してある。

港則法の航路 特定港に出入するための航路で、八戸港、仙台塩釜港、木更津港、千葉港、京浜港、清水港、名古屋港、四日市港及び高知港の各港にある。（港則法第 12 条、同法施行規則第 8 条）

信 号

航行管制信号 八戸港、仙台塩釜港、鹿島港、千葉港、京浜港、名古屋港、四日市港及び高知港の各港においては、港則法に基づく航行管制信号を行っている。（港則法第 38 条第 1 項、第 3 編沿岸・港湾記参照）

私設信号 千葉港においては、係留施設の使用に関する私設信号が定められている。（平成 7 年海上保安庁告示第 34 号「係留施設の使用に関する私設信号」、第 3 編沿岸・港湾記参照）

航路標識

港湾及び航路の整備などに伴い航路標識が一時的に設置、移設及び撤去されることがあるので、水路通報、航行警報及び安全通報などに注意する必要がある。

各港湾付近及び陸岸寄りの灯光による航路標識は、背後の灯火や漁火などにより見えにくいことがある。

浮標式 日本国内では、IALA（国際航路標識協会）海上浮標式（B 方式）を採用している。

水源 左舷標識及び右舷標識の方向の基準となる“水源”は、次のように定められている。

1 主航路から港湾に接続する航路は港湾側を、また港湾内における航路については、通常船舶が停止して荷役するところを水源とする。

2 上記以外については次表による。

水 域	水 源
港、湾、河川及びこれらに接続する水域	港若しくは湾の奥部又は河川の上流
上記以外の水域	与那国島（南西諸島）

電波による航路標識 この水路誌の記載区域内で利用できる電波による航路標識は次のとおりである。

25 ロラン C

名 称	主 局	従 局	レート
ロシアチェーン	Alexandrovsk {ロシア}	Petropavlovsk {ロシア}	7950-W
		Ussuriisk {ロシア}	7950-X
		Okhotsk {ロシア}	7950-Z
韓国チェーン	Pohang {韓国}	Kwangju {韓国}	9930-W
		Ussuriisk {ロシア}	9930-Z

（注）ロシアチェーン局は、調整用電波を発射中である。

5 AIS 信号所 船舶の AIS (Automatic Identification System: 船舶自動識別システム) 受信機又は AIS 重畳表示が可能なレーダや ECDIS (Electronic Chart Display and Information System: 電子海図表示システム) 画面上に航行船舶の指標となる航路標識のシンボルマーク等を示すための電波を発射する施設のこと。種別には、既存の航路標識に AIS 局を併置した「Real」と実際には存在しない航路標識をレーダ等に表示させる「Virtual」がある。本誌記載区域内には、次の 21AIS 信号所がある。

AIS 信号所名	位 置	種 別	備 考
久慈港沖海洋観測施設	40° 13.5' N 142° 00.8' E	Real	久慈港沖海洋観測施設灯に併置
東京湾口第 1 号	35° 05.8' N 139° 44.5' E	Virtual	東京湾海上交通センター管理
東京湾口第 2 号	35° 08.1' N 139° 45.2' E	Virtual	東京湾海上交通センター管理
東京湾口第 3 号	35° 10.4' N 139° 45.9' E	Virtual	東京湾海上交通センター管理
東京西航路第 6 号	35° 34.8' N 139° 48.1' E	Virtual	東京湾海上交通センター管理
京浜川崎シーバース	35° 28.0' N 139° 46.1' E	Real	
浦賀水道航路中央第 1 号	35° 12.7' N 139° 46.6' E	Real	浦賀水道航路中央第 1 号灯浮標に併置
伊豆大島西岸沖推薦航路北 パーチャル AIS 航路標識 (安全水域標識)	34° 48.0' N 139° 17.0' E	Virtual	東京湾海上交通センター管理
伊豆大島西岸沖推薦航路南 パーチャル AIS 航路標識 (安全水域標識)	34° 42.2' N 139° 10.0' E	Virtual	東京湾海上交通センター管理
伊良湖水道航路北口東端	34° 34.8' N 136° 59.4' E	Virtual	伊勢湾海上交通センター管理
伊良湖水道航路南東方	34° 32.4' N 137° 01.8' E	Real	伊勢湾第 2 号灯浮標に併置
中山水道開発保全航路第 1 号	34° 37.7' N 136° 58.6' E	Real	中山水道開発保全航路第 1 号灯標に併置
四日市港昭和四日市石油シーバース	34° 55.8' N 136° 42.2' E	Real	
梶取埼南東方浮魚礁施設	33° 30.7' N 136° 05.7' E	Real	梶取埼南東方浮魚礁施設灯に併置
檜野埼東方浮魚礁施設	33° 27.9' N 135° 57.6' E	Real	檜野埼東方浮魚礁施設灯に併置
和深埼南西方浮魚礁施設	33° 25.5' N 135° 27.3' E	Real	和深埼南西方浮魚礁施設灯に併置
市江埼南西方浮魚礁施設	33° 26.3' N 135° 18.3' E	Real	市江埼南西方浮魚礁施設灯に併置
見草埼南西方浮魚礁施設	33° 27.5' N 135° 07.7' E	Real	見草埼南西方浮魚礁施設灯に併置
瀬戸埼南西方浮魚礁施設	33° 30.3' N 135° 05.3' E	Real	瀬戸埼南西方浮魚礁施設灯に併置
土佐黒潮牧場 20 号施設	33° 01.0' N 133° 35.0' E	Real	土佐黒潮牧場 20 号施設灯に併置
土佐黒潮牧場 21 号施設	32° 23.2' N 132° 28.9' E	Real	土佐黒潮牧場 21 号施設灯に併置

水先人会

各水先区における水先人会の概要は、次表のとおりである。

1 八戸水先区水先人会

電話番号等	乗船地点	備考
TEL 0178-28-9421 FAX 0178-28-4975	1 一般船 (40° 34.9' N 141° 33.1' E) 2 大型LNG船 (40° 35.5' N 141° 33.8' E)	1 検疫を受けるため等、検疫錨地付近に錨泊している小型の船舶についてはその場所で乗船する場合もある。 2 水先人用はしごはうねりを遮蔽する側に確実に取り付け、かつ、水面上3mに最下段のステップがくるよう取り付けること。 3 コンビネーションラダーを設置する場合のキャングウェイステップの高さは水面上6~7mの位置にセットすること。 4 水先人乗下船時の本船速力は5kn以下にすること。

5 2 釜石水先区水先人会

電話番号等	乗船地点	備考
TEL 0193-55-4810 FAX 0193-55-4811	1 陸中尾崎灯台の北北東方1M付近 2 錨泊船は検疫錨地付近	

3 仙台湾水先区水先人会

電話番号等	乗船地点	備考
TEL 022-781-7246 FAX 022-362-5519	1 仙台湾塩釜港塩釜区 38° 17.7' N, 141° 10.3' E付近 2 仙台湾塩釜港仙台区 仙台湾沖灯浮標 (38° 13.4' N, 141° 08.0' E) から090° 及び170° へ各3M引いた線の南東側の扇形状の錨泊区域内 3 石巻港 38° 21.7' N 141° 15.8' E付近	1 水先人用はしごはうねりの方向の反対舷、水面上2mに保持すること。コンビネーションラダーの場合は、下部プラットフォームを水面上5mに保持すること。 2 塩釜区において南寄りのうねりが高く、水先艇が港外出動困難な場合には、本船と連絡をとったうえで、水先人は高島根灯浮標付近で待機し、本船が近寄るのを待って乗船することがある。 3 塩釜区、仙台区、石巻港いずれの乗船場所付近も、ノリ網、刺し網等の漁網が設置されていることが多いので注意を要する。

4 小名浜水先区水先人会

電話番号等	乗船地点	備考
TEL 0246-54-6653 FAX 0246-53-3273	1 一般船舶 沖防波堤西灯台から160° 1M付近 (36° 53.7' N 140° 53.4' E) 2 大型タンカー 同灯台から160° 2M付近 (36° 52.6' N 140° 53.9' E)	1 水先人乗船には四季を通じて舷梯を使用せず水先人用はしごを使用すること。 2 水先人用はしごは常時うねりを遮蔽する側に取り付けること。ただし、うねり微弱で風が卓越する場合は、風下舷に用意すること。なお、水先人用はしごは最下段のステップが水面上1mの位置となるよう確実に取り付けすること。 3 水先人乗船時は速力3kn以下にすること。 4 南風が強く波浪の高い時は、圧流され防波堤に接近するおそれがあるので、なるべく港口に近寄らず通常乗船位置より南側で待つこと。

3 通報の方法及び通報先

無線通信（海上保安庁の指定海岸局）、電子メール、テレックスによる通報のほか、最寄りの海上保安部署への書面の提出又は電報、電話による通報も受け付けている。

海上保安庁警備救難部管理課運用司令センター

5 電子メールアドレス jasrep@jcgcomm.jp
 テレックス番号 72 222 5193 JMSAHQ J

4 その他 通報様式等詳細は、下記のウェブページに掲載されている。

URL <https://www.kaiho.mlit.go.jp/info/jasrep/>

10

AIS による船舶の自動識別

AIS（Automatic Identification System：船舶自動識別システム）とは、船舶の識別符号、船種、船名、長さ及び幅などの静的情報、位置、針路、速力、船首方位などの動的情報、仕向け港、到着予定時刻などの航行関連情報を自動的に VHF 帯電波で送受信し、船舶局相互間及び船舶局と陸上局の航行援助施設等との間で、情報の交換を行うシステムである。

15

港則法施行規則第 11 条第 1 項の規定に基づき、進路を他の船舶に知らせるために船舶自動識別装置の目的に関する情報として送信する記号を掲載した。（平成 22 年海上保安庁告示第 94 号）（第 10 章 法規 38 ページ参照）

なお、仕向け港での進路を示す記号は第 3 編沿岸・港湾記各適用港に掲載した。

詳細は下記 URL を参照されたい。

20

URL <https://www.kaiho.mlit.go.jp/syoukai/soshiki/toudai/navigation-safety/news-houan4.htm>

仕向け港を示す記号（本誌記載区域内の港湾を抜粋）

適用港の港コード一覧表（港名順）

* 入力時：コード入力前に「>JP」を入力する。

青森県							
港名	コード	港名	コード				
むつ小川原	MUT	八戸	HHE				
岩手県							
港名	コード	港名	コード	港名	コード	港名	コード
久慈	KJI	八木	YGI	宮古	MYK	山田	YAD
大槌	OTJ	釜石	KIS	大船渡	OFT	広田	HTA
宮城県							
港名	コード	港名	コード	港名	コード	港名	コード
気仙沼	KSN	志津川	SZG	女川	ONG	鮎川	AYU
荻浜	OGH	渡波	WAT	石巻	ISM	仙台塩釜	SGM
福島県							
港名	コード	港名	コード	港名	コード	港名	コード
相馬	SMA	四倉	YOT	江名	ENA	中之作	NKX
小名浜	ONA						
茨城県							
港名	コード	港名	コード	港名	コード	港名	コード
平潟	HRK	大津	OSJ	会瀬	OUS	日立	HTC
常陸那珂	HIC	那珂湊	NMT	大洗	OAR	鹿島	KSM

八戸港 (40° 32' N 141° 32' E) (海図 W65) (JP HHE)



(2018年5月撮影)

港種 特定港、開港、検疫港、出入国港、家畜検疫の港、植物防疫の港

5 **概要** この港は、第1区～第3区に分かれ、東航路、西航路の2航路が定められている。

外側に中央防波堤及び第2中央防波堤が築造されたので、外海の波浪を防ぐようになったが、東寄りの風が強吹するときは、返し波が強く、西航路の通航ができないことがある。

また、北寄りの風が強吹するときは、第1区及び第2区内にうねりが侵入し係船が困難になることがある。

10 **気象** 年間を通じて西南西からの陸風が最も多い。低気圧が八戸港の南側近くを通過するときには、東より又は北寄りの風が強吹する。6～8月にかけて濃霧がかかることがあり、視界が一日中閉ざされることもある。冬季、全く視界を閉ざすような吹雪の日が数日間あるという。

潮汐 この港における平均高高潮は1.2m、平均低低潮は0.3m、平均水面は0.85mである。

目標

地物名	概位	備考
蕪《カブ》島	40° 32.3' N 141° 33.5' E	中央に神社と2記念碑がある。北半分は岩で、ウミネコ（天然記念物）の繁殖地のため、2～8月は鳥ふんで白く見える。
サイロ・ベルトコンベアー	40° 31.9' N 141° 33.0' E	顕著
八戸大橋	40° 31.8' N 141° 31.4' E	高さ31m、中央に橋梁灯があり、東側橋上に信号柱がある。
油タンク群	40° 32.0' N 141° 31.0' E	青塗、淡黄色塗など多様
八戸LNGターミナル	40° 32.7' N 141° 31.6' E	高さ50m、頂部が球状の円筒形（直径80m）LNGタンク、2基

15 **通信** 船舶と港長との間で、「しおがまほあん」を介しVHF無線電話による港務通信ができる。

呼出名称	周波数 (呼出・応答/通信)	運用時間	連絡先	備考
しおがまほあん SHIOGAMA COAST GUARD RADIO	ch16/12	常時	八戸海上保安部	

架橋 河原木 1 号ふ頭南部から南西方の石油基地に至る八戸シーガルブリッジ (40° 32. 0' N 141° 31. 5' E、高さ 4. 5~5. 5m、橋梁灯がある) がある。新井田川河口の第一工業港入口に、八戸大橋 (目標の項参照) がある。

最大入港船舶 2014 年 4 月 24 日、LNG タンカー TANGGUH HIRI (101, 957 t、喫水 12. 2m) が ENEOS 八戸 LNG ターミナル専用棧橋に着岸した。

台風・津波対策 台風・津波・低気圧による海難事故を防止するため、八戸港船舶津波・台風等対策協議会が設置されており、在港船舶などに対し、情報の伝達及び警戒体制・避難・入港制限の勧告・解除等の災害防止措置を指導している。**八戸港長から避難勧告が発出された際は、八戸 LNG ターミナル前面海域に錨泊自粛海域が設定される。** (問合せ先：八戸海上保安部)

10 **海事関係官公署**

官公署名	連絡先	官公署名	連絡先
八戸海上保安部 (八戸港長、むつ小川原港長)	0178-32-4691	横浜植物防疫所塩釜支所 八戸出張所	0178-33-5424
函館税関八戸税関支署	0178-33-0423	青森県三八地域県民局 地域整備部八戸港管理所	0178-21-2280
東北運輸局青森運輸支局 八戸海事事務所	0178-33-0718		
仙台検疫所八戸出張所	青森出張所 017-722-7687 へ連絡		

引船・通船 引船がある。漁港 (鮫) に通船組合があり、在泊船舶との連絡を行う。

補給 主な岸壁、物揚場で清水が、漁港 (鮫及び小中野) では氷がそれぞれ補給できる。給油船がある。

修理

造船所名	電話番号	備考
北日本造船所 (株)	0178-24-4171	
八戸造船事業協同組合	0178-44-5181	

15 **廃油処理施設**

事業者名	申込先	利用時間	処理する廃油の種類	
			廃重質油	廃軽質油
青森県	新湊 3 丁目 (受入施設が 3 基ある。)	24 時間	ビルジ	
環境技術株式会社	油槽部 0178-20-2666	0800~1630	ビルジ・スラッジ・その他	

医療施設

名称	電話番号	備考
八戸市立市民病院	0178-72-5111	
労働者健康福祉機構青森労災病院	0178-33-1551	

海上交通 苫小牧に至るカーフェリー便 (10, 536 t 他) がある。**また、室蘭に至るカーフェリー便 (7, 005t) が寄港する。**

目標

地物名	概位	備考
無線塔群	39° 38.8' N 141° 58.0' E	2無線塔（高さ66m・67m）、観測塔（高さ59m、白塗）及び煙突（高さ59m）がある。
無線塔	39° 38.1' N 141° 57.5' E	高さ127m、赤白塗
著屋	39° 37.7' N 141° 57.8' E	市民文化会館、白色三角形

海底波高計 竜神埼防波堤の東方約0.2Mに海底波高計が設置されている。

水先 水先法という水先区ではないが水先類似行為者がいる。

5 **入港上の注意** 東日本大震災の被災により、以下のことに注意を要する。

1 港内には陰悪物が散在しているので注意を要する。

2 閉伊川河口で水門の建設工事が行われている。

針路法 北方からは、陸中弁天埼灯台（39° 56.8' N 141° 57.6' E）の東北東方約7Mの所から針路190°で閉伊埼灯台（39° 39.3' N 142° 01.5' E）に向首する。姉ヶ崎東方2Mで針路を216°とし、宮古港藤原防波堤灯台（39° 37.7' N 141° 58.6' E）に向首する。館ヶ崎航過後は、適宜港内に向かう。

10 南方からは、針路320°で陸中真埼灯台に向け進み、閉伊埼灯台の北東方で針路を250°とし、日出島南端に向首する。同灯台の北方1.5Mで針路を216°とし、宮古港藤原防波堤灯台に向首する。館ヶ崎航過後は、適宜港内に向う。その際、下記事項に注意を要する。

錨地 大型船は、通常藤原防波堤の東方にある検疫錨地付近に錨泊する。**検疫錨地付近以外の宮古湾口側に錨泊する場合は、深水域かつ定置網ほか養殖施設が設置されており、注意を要する。**

港湾施設

名称	概位	長さ(m)	水深(約m)	係船能力(D/W×隻)	備考	
日立浜岸壁	39° 38.6' N 141° 58.4' E	240	3.5~6	300 t × 4		
鉾ヶ崎岸壁	39° 38.6' N 141° 58.1' E	505	3~5	500 t × 7		
出崎ふ頭	-9m岸壁	39° 38.4' N 141° 58.3' E	175	7~8		10,000×1
	-7.3m岸壁	39° 38.5' N 141° 58.2' E	218	6.5		3,000×2
藤原第1ふ頭	-12m岸壁	39° 38.0' N 141° 58.2' E	240	10		30,000×1
	-7.5m岸壁	39° 38.1' N 141° 58.0' E	260	6.5~8		5,000×2
藤原ふ頭	39° 38.1' N 141° 57.9' E	180	3.5~6	700×3		
藤原第2ふ頭	-10m岸壁	39° 37.7' N 141° 58.2' E	740	9~10		12,000×4
	-7.5m岸壁	39° 37.9' N 141° 58.2' E	260	6.5~7.5		5,000×2

入港上の注意 宮古湾の両岸には、多数の定置網（各周年）があるが、特に閉伊埼灯台の西方約0.6Mから南西方約1.2M間の距岸約800m以内にある定置網及び養殖施設には、注意を要する。

20 出崎ふ頭南側の閉伊川河口一帯は、水深1~3mで、強風が吹くと破浪することがある。また、増水時には、流れが強いので注意しなければならない。

最大入港船舶 2019年4月25日、客船 ダイヤモンド・プリンセス（115,875 t、喫水8.6m）が、藤原第2ふ頭-10m岸壁に着岸した。

台風・津波対策 台風・津波等による海難事故を防止するため、宮古港船舶津波・台風等異常気象対策協議会が設置されており、在港船舶などに対し、情報の伝達及び警戒体制・避難・入港制限の勧告・解除等

25

入港上の注意 東日本大震災の被災により、地盤沈下及び一部損壊している岸壁があるので、入港前に港湾管理者等に確認を行うこと。

針路法 港口の南方 1.5M 付近から気仙沼港導灯 (38° 53.7' N 141° 35.7' E (前灯)、38° 54.0' N 141° 35.7' E (後灯)) 2 灯一線 (354.8°) 上を進み、大川河口付近から適宜の針路で錨地に向かう。

5 **錨地** 検疫錨地は東湾口 (38° 51.4' N 141° 38.8' E) 付近にある。

港湾施設

名 称	概 位	長 さ (m)	水 深 (約m)	係 船 能 力 (D/W×隻)	備 考
朝日 ふ頭	1,000 t 岸壁	38° 53.5' N 141° 35.3' E	180	7~8	1,000×3
	5,000 t 岸壁	38° 53.4' N 141° 35.5' E	390	6~8	5,000×3
魚揚岸壁	38° 53.9' N 141° 35.0' E	470	8	300×7	魚市場がある。
-6m岸壁	38° 54.1' N 141° 34.8' E	285	6		
-4m岸壁	38° 54.3' N 14961° 34.8' E	260	5.5		

架空線 蜂ヶ崎と南南西方対岸との間に、送電線 (高さ約 31m) がある。

10 **架橋** 朝日ふ頭から北東方の小々汐地区に至る **三陸道路の架橋気仙沼湾横断橋** (38° 53.6' N 141° 35.6' E、高さ 約 32m、海上部 長さ約 480m) がある。

台風・津波対策 台風・津波等による海難事故を防止するため、気仙沼市地震・津波防災検討会議が設置されており、在港船舶などに対し、情報の伝達及び警戒体制・避難・入港制限の勧告・解除等の災害防止措置を指導している (問合せ先：気仙沼海上保安署)。

海事関係官公署

官 公 署 名	連 絡 先	官 公 署 名	連 絡 先
気 仙 沼 海 上 保 安 署	0226-22-7084	仙台検疫所大船渡・気仙沼出張所	仙台検疫所(本所) 022-367-8100 へ連絡
横浜税関仙台塩釜税関支署 気仙沼出張所	0226-23-1023	宮城県気仙沼土木事務所	0226-24-2539
		東北運輸局気仙沼海事事務所	0226-22-6906

15

補給 清水、氷の補給ができる。給油船がある。

修理 小型船舶及び総トン数 500 t までの漁船を上架できる造船所が数社ある。(問合せ先：気仙沼造船団地共同組合 TEL 0226-23-7482)

廃油処理施設

事業者名	申 込 先	利用時間	処理する廃油の種類	
			廃重質油	廃軽質油
宮 城 県	気仙沼清港会 0226-24-1777	0830~1715	ビルジ・水バラスト	

20

医療施設

名 称	電 話 番 号	備 考
気仙沼市立病院	0226-22-7100	

目標

地物名	概 位	備 考
尾 浦 山	38° 27.0' N 141° 28.8' E	高さ 277m、頂上付近は杉に覆われている。
高 崎 山	38° 25.8' N 141° 27.4' E	高さ 291m、北東側山すそ付近は切り崩されている。
著 屋	38° 26.6' N 141° 26.7' E	女川町地域医療センター

入港上の注意 東日本大震災の被災により、海底には漁具や車両等の障害物が沈んでいることが考えられ、注意すること。

5 港湾施設

名 称	概 位	長さ (約m)	水深 (約m)	係船能力 (D/W×隻)	備 考	
石浜 ふ頭	-7.5m岸壁	38° 26.7' N 141° 27.4' E	137	7.5	5,000×1	
	-4.5m岸壁	38° 26.7' N 141° 27.3' E	62	4.5	700×1	
宮ヶ崎 前面の ふ頭	-7m岸壁	38° 26.7' N 141° 27.2' E	165	7		東岸
		38° 26.6' N 141° 27.2' E	294	7		南岸、西岸
宮ヶ崎岸壁		38° 26.7' N 141° 27.1' E	222	6~6.5		
		38° 26.7' N 141° 27.0' E	224	4.5~7		

上表のほか、対岸にも**鷺の神岸壁**（延長約 354m、水深約 4.5~6m、**一部損壊**）がある。また、港内には 300 t 以下の船舶が係船できる岸壁、物揚場が多数ある。

補給 清水及び燃料油はタンクローリー等で行われている。氷の補給ができる。

修理 150 t 級船舶を上架できる造船所がある。

10 **海上交通** 付近の島々に至る定期船便がある。

医療施設

名 称	電 話 番 号	備 考
女川町地域医療センター	0225-53-5511	

金華山付近（海図 W79）

15 **概要** 早崎水道は、女川湾口南側の早崎付近と東方の江島列島西部の二股島との間にある水道で、水深 10m 以上の水路幅は約 600m で、中央部の水深は 40m 前後である。金華山瀬戸から早崎以北に至る小型船の多くはこの水道を通る。

金華山瀬戸の最狭部は**鹿渡**の部分で、幅約 600m であるが、両岸から水深 4m 以下の浅瀬が延びているため、水深 5m 以上の水路幅は約 300m である。この地方に詳しい船舶以外は通航しない方がよい。金華山の西部にある**金華山港**の前面は東風、西風のときには仮泊地としてよい。

20 金華山の周辺には、定置網があり、また、毎年春先から 7 月頃までオキアミ漁などのすくい網漁船が多数操業するため、十分な注意が必要である。

針路法（第 19 図、101 ページ参照）

25 金華山瀬戸を南方から通航するには、金華山の北西端を 020° に見て航進し、大室埼を正横に見る所から、003° に変針して水路の中央に向かい鹿渡付近に差しかかったならば、針路 017° で平島頂(38° 24.2' N

目標

地物名	概 位	備 考
網地島	38° 16.0' N 141° 28.7' E	高さ 101m、平らな島で、南東端に灯台がある。
田代島	38° 17.9' N 141° 25.0' E	高さ 95m、北端に灯台がある。
人石山	38° 20.0' N 141° 29.4' E	高さ 319m、鋭頂で、樹木が茂る。
大室崎	38° 21.3' N 141° 25.0' E	崎上に松が疎生し、黒色で、遠望顕著
3 煙 突	38° 25.1' N 141° 17.3' E	高さ 104m・93m (各赤白塗)、高さ 89m (灰色) 遠望顕著、日本製紙構内

針路法

北方から石巻港へ

- 1 金華山灯台 (38° 16.6' N 141° 35.0' E) の東南東方約 10.5M の所で針路 259° に変針する。
- 5 2 濤波岐《ドウミキ》埼灯台 (38° 14.8' N 141° 30.0' E) 正横約 4.8M で針路 290° に変針し、花淵灯台 (38° 17.7' N 141° 05.1' E) に向首する。
- 3 波島灯台 (38° 18.9' N 141° 11.1' E) から 132° 約 7.4M 付近で針路 357° に変針し、日本製紙の 3 煙突 (上記目標の項参照) に向首する。
- 4 波島灯台正横付近で針路 335° に変針し、港口へ向かう。

10 北方から仙台塩釜港塩釜区へ

- 1 網地島南南東方約 4.8M から針路 290° で花淵灯台に向けて進む。
- 2 波島灯台から 132° 約 7.4M で針路 298° に変針し、**仙台塩釜港航路**に向首し、適宜港口に向かう。

北方から仙台塩釜港仙台区へ

- 網地島の南南東方約 4.8M の地点までは、塩釜区へ向かう針路と同じであるが、この地点から針路 282° に変針し、港口に向かう。

南方から

第 2 編航路記 第 1 章東京湾～津軽海峡、44 ページ参照

錨地

- 20 1 田代島の二鬼城埼灯台 (38° 18.7' N 141° 25.1' E) から北西方約 1M の水深約 20m、底質泥は東～南東の風波が避けられる。
- 2 石巻港雲雀野防波堤灯台 (38° 23.9' N 141° 15.9' E) から南方約 1.5M の水深約 15m、底質泥は北寄りの風波が避けられる。
- 3 波島灯台から南南東方約 1.5M の水深約 22m、底質泥は、北西寄りの風波が避けられる。

25 **鮎川港** (38° 18' N 141° 30' E) (海図 W1324) (JPAYU)

概要 黒埼と清埼との間の湾入部にある港則法適用港である。前面に網地島、田代島があつてよく風波を防ぎ、また、外海に近く水路も広いので、船舶の避泊にも便利である。しかし、南東風の強吹するときには、網地島に突き当たった反射波が港内に**進入**し、また、1、2月には、山おろしが強吹することがあるので注意を要する。

- 30 東岸から西方へ延びる南防波堤、西岸から南東方に延びる向田防波堤が南方からの波浪を防いでいる。

水先 仙台湾水先区水先人会に要請する。(第 1 編 総記 第 6 章 水先、12 ページ参照)

入港上の注意

- 1 公共岸壁(水深 4.5m 以上)は、ほぼ利用が可能となっているが、入港する場合には、事前に港湾管理者等から港湾施設等について詳細な情報を入手すること。
- 5 2 港内には険悪物が散在しているので注意を要する。

針路法

工業港 港口に近づいたら、石巻港雲雀野防波堤灯台(38° 23.9' N 141° 15.9' E)とその西方約 400 mにある石巻港第 1 号灯浮標との間の水路中央を同防波堤に並行して進む。同防波堤は、接近しないと確認できないことがある。

- 10 **内港** 旧北上川の中央を航行すればよいが、河口の水深は絶えず変化している。また、河口の東・西防波堤は高潮時に没することがあるので注意を要する。

漁港 石巻漁港導灯(38° 24.9' N 141° 20.8' E(前灯、後灯共)、2 灯一線 000.6°)を進む。次に、西防波堤に並行して進み、船だまり内に向かう。

錨地 検疫錨地は、雲雀野防波堤灯台の南東方にある。

15 港湾施設

名称		概位	長さ(m)	水深(約m)	係船能力(D/W×隻)	備考
南浜ふ頭	大型 棧橋	38° 24.8' N 141° 16.4' E	165	11	15,000×1	
	10,000 t 岸壁	38° 24.9' N 141° 16.5' E	165	9	10,000×1	
	5,000 t 岸壁	38° 24.9' N 141° 16.6' E	130	7.5	5,000×1	
潮見ふ頭 1~5 号岸壁		38° 25.1' N 141° 17.1' E	290	4.5	1,000×5	一部工事中未測箇所あり
日和三河 1 号岸壁		38° 25.1' N 141° 17.0' E	110	4.5	1,800×1	
日和三河 2 号岸壁		38° 25.1' N 141° 17.0' E	110	4.5	1,800×1	
日和ふ頭	1~5 号岸壁	38° 25.1' N 141° 16.6' E	380	2.5~3.5	1,000×5	
	6 号岸壁	38° 25.0' N 141° 16.4' E	165	10	10,000×1	
	7 号岸壁	38° 25.1' N 141° 16.4' E	185	9.5~10	15,000×1	
大手ふ頭	1・2 号岸壁	38° 25.2' N 141° 16.3' E	260	7.5	5,000×2	
	3~5 号岸壁	38° 25.2' N 141° 16.1' E	320	5.5	2,000×3	
中島ふ頭	1 号岸壁	38° 25.1' N 141° 16.0' E	130	5.5	2,000×1	
	2・3 号岸壁	38° 25.0' N 141° 16.0' E	372	10	15,000×2	
	1,000 t 岸壁	38° 24.9' N 141° 16.0' E	60	7.5	1,000×1	
雲雀野中央ふ頭	1 号岸壁	38° 24.3' N 141° 17.2' E	260	13	40,000×1	
	2 号岸壁	38° 24.4' N 141° 17.1' E	260	13	40,000×1	
雲雀野北ふ頭		38° 24.5' N 141° 16.9' E	170	5.5~9	12,000×1	
石巻漁港	-7m 岸壁	38° 24.7' N 141° 20.0' E	1,481	5.5~7	—	魚市場がある。
	-6m 岸壁	38° 24.7' N 141° 19.2' E	1,157	5~6	—	
	-7m 棧橋	38° 24.6' N 141° 19.9' E	716	5.5~7	—	

上表のほか、内港に水深 4.5m 以下の物揚場、棧橋があり、工業港には会社専用の係船施設がある。

係船浮標 南浜ふ頭大型棧橋の南側に係船浮標がある。

架橋 旧北上川河口に下流側から順に日和大橋(高さ約 17m)及び石巻かわみなど大橋(高さ約 12m)がある。

- 20 **最大入港船舶** 2019 年 4 月 12 日、客船ダイヤモンド・プリンセス(115,875t、喫水 8.5m)が、雲雀野中央ふ頭に着岸した。

台風・津波対策 台風・津波等による海難事故を防止するため、石巻港船舶津波・台風等対策協議会が設置されており、在港船舶などに対し、情報の伝達及び警戒体制・避難・入港制限の勧告・解除等の災害防

止措置を指導している（問合せ先：石巻海上保安署）。

海事関係官公署

官公署名	連絡先	官公署名	連絡先
石巻海上保安署（港長）	0225-22-8088	仙台検疫所石巻出張所	仙台検疫所 022-367-8100 ～連絡
横浜税関仙台塩釜税関支署石巻出張所	0225-22-4649	横浜植物防疫所塩釜支所石巻出張所	0225-95-0261
東北運輸局石巻海事事務所	0225-95-1228	宮城県石巻港湾事務所	0225-95-6271
宮城県東部地方振興事務所水産漁港部	0225-95-7318		

引船 引船がある。

5 通船 通船が数隻ある。

修理

造船所名	電話番号	備考
(株)鈴木造船所	0225-22-6141	
(株)ヤマニシ	0225-82-5551	

医療施設

名称	電話番号	備考
石巻市立病院	0225-25-5555	
石巻赤十字病院	0225-21-7220	

海上交通 内港から田代島を経て網地島に至る定期船便がある。

10

15

塩釜区第 1、2 区（通称内港）は、よく風波を防ぎ安全である。

潮汐 この港における平均高高潮は 1.4m、平均低低潮は 0.3m、平均水面は 0.92m である。

潮流 代ヶ崎水道（航路）における上げ（下げ）潮流は西北西（東南東）方へ流れ、1.8(2.6)kn である。

目標

地物名	概位	備考
富山	38° 23.8' N 141° 06.5' E	高さ 124m
波島	38° 19.0' N 141° 11.1' E	高さ 26m、平坦な島で、南西端に灯台がある。
立標	38° 19.0' N 141° 09.7' E	港界標柱、白塗、唐戸島南東端
船入島	38° 19.2' N 141° 07.2' E	航路東口北側
カラカイ島	38° 19.0' N 141° 07.3' E	航路東口北側、高さ 18m
水島	38° 19.3' N 141° 06.1' E	高さ 22m
地蔵島	38° 19.4' N 141° 04.3' E	灯台がある。馬放島間に満潮時水没する北防砂堤がある。
代ヶ崎	38° 19.3' N 141° 03.9' E	崎頂に多間山がある。
花淵崎	38° 18.0' N 141° 05.4' E	崎上は松が茂り、黒色で、遠望顕著。崎端に白塗標柱（高さ 25m）、崎の南西方約 850m の保ヶ崎に花淵灯台がある。
煙突	38° 20.2' N 141° 02.7' E	高さ 67m、灰塗
仙台区		
煙突	38° 16.5' N 141° 02.3' E	高さ 183m、灰色、東北電力新仙台火力発電所、タンク群も顕著
仙台サイロ	38° 16.3' N 141° 01.2' E	灰色、顕著

5

通信 船舶と港長との間で、「しおがまほあん」を介し VHF 無線電話による港務通信ができる。

呼出名称	周波数 (呼出・応答/通信)	運用時間	連絡先	備考
しおがまほあん SHIOGAMA COAST GUARD RADIO	ch16/12	常時	宮城海上保安部	

水先 仙台湾水先区水先人会に要請する。（第 1 編 総記 第 6 章 水先、12 ページ参照）

航路 塩釜区、船入島の南方 0.6M 付近から、代ヶ崎水道を経て貞山ふ頭の北方に至る幅 130m の航路がある。

なお、水島島頂と二ツ島島頂（38° 18.4' N 141° 06.1' E、高さ 20m）を結んだ線以西の水路においては、航行管制を行っているので注意を要する。

入港上の注意 塩釜区を利用する船舶は、大根灯浮標（38° 15' 56.2" N 141° 09' 51.5" E、モールス符号緑光毎 8 秒に A（・ー））、沖ノ高根灯浮標（38° 17' 26.8" N 141° 09' 18.5" E、モールス符号緑光毎 8 秒に B（ー・・・））の東側を十分距離を保ちながら航行することが必要であり、同灯浮標の西側を航行するのは複数の浅瀬までの距離が近いことため大変危険である。

1 公共岸壁（水深 4.5m 以上）は、ほぼ利用が可能となっているが、入港する場合には、事前に港湾管理者等から港湾施設等について詳細な情報を入手すること。

2 港内には険悪物が散在しているので注意を要する。

~~仙台区を利用する船舶は、仙台港沖防波堤灯台を左舷側に見ながら航行すること。~~

~~また、~~仙台港の南側海域には養殖施設が設置される区画漁業区域が設定されており仙台南防波堤東端及び仙台中防波堤南西端の間から入出港するのは大変危険である。同海域から入港しようとした船舶による養殖施設への乗揚げ事故が複数発生している。

針路法 塩釜区へは、波島南方約 2M の港外から針路 302° に変針して、航路に入る。

なお、航路の両側には、険礁があるので注意を要する。

信号 馬放島にある塩釜信号所（38° 19.4' N 141° 04.2' E）で水路の管制信号を行っている。

25

港湾施設

名 称		概 位	長 さ (m)	水 深 (約m)	係 船 能 力 (D/W×隻)	備 考
1号 ふ頭	1・2号岸壁	36° 56.7' N 140° 54.4' E	213	7	300t×4	漁港区
	3号岸壁	36° 56.6' N 140° 54.4' E	150	8	300t×3	
2号 ふ頭	3・4号岸壁	36° 56.6' N 140° 54.0' E	各 130	6.5~8.5	5,000×2	
	5・6号岸壁	36° 56.6' N 140° 53.9' E	各 73	4~6	1,000×2	
3号 ふ頭	1~4号岸壁	36° 56.5' N 140° 53.8' E	各 175	9~10	10,000×4	
	5・6号岸壁	36° 56.5' N 140° 53.7' E	各 73	4~4.5	700×2	
	7号岸壁	36° 56.5' N 140° 53.6' E	74	4	700×1	
1号岸壁	90		4~4.5	700×1		
4号 ふ頭	2・3号岸壁	36° 56.4' N 140° 53.5' E	各 200	9~9.5	10,000×2	
	4~6号岸壁	36° 56.3' N 140° 53.4' E	各 100	6	3,000×3	
	5号ふ頭	1号岸壁	36° 56.1' N 140° 53.2' E	240	11~12	30,000×1
6号 ふ頭	1号岸壁	36° 56.0' N 140° 53.0' E	280	13~14.5	50,000×1	
	2・3号岸壁	36° 56.0' N 140° 52.8' E	各 130	6~8.5	5,000×2	
7号 ふ頭	1・2号岸壁	36° 55.9' N 140° 52.8' E	各 270	12~13	40,000×2	
	3・4号岸壁	36° 55.8' N 140° 52.7' E	各 185	7~10.5	10,000×2	
	5号岸壁	36° 55.9' N 140° 52.6' E	130	6.5~7	5,000×1	
藤原 ふ頭	1号岸壁	36° 55.8' N 140° 52.4' E	185	9.5~ 10.5	10,000×1	岸壁北東端付近は浅い。
	2号岸壁	36° 55.7' N 140° 52.4' E	241	10.5~12	30,000×1	
	3号岸壁	36° 55.7' N 140° 52.3' E	185	6.5~9	12,000×1	
	4号岸壁		130	6~7	5,000×1	
大剣 ふ頭	1・2号岸壁	36° 55.6' N 140° 52.2' E	各 130	4.5~7	5,000×2	
	3・4号岸壁	36° 55.5' N 140° 52.3' E	各 185	8.5~9	10,000×2	クレーン
	5~8号岸壁	36° 55.4' N 140° 52.2' E	各 130	6.5~9.5	5,000×4	
東港	1号岸壁	36° 55.8' N 140° 53.6' E	370	18	120,000×1	クレーン
	2号岸壁	36° 56.0' N 140° 53.7' E	222	17~17.5	90,000×1	

上表のほか、大剣ふ頭の南東端及び同ふ頭の南西方に、石油会社専用の係船施設がある。

シーバース 第2西防波堤北側に小名浜石油シーバース(長さ270m、計画水深15m、係船能力99,999D/W×1)がある。

係船浮標 港内東側奥の船だまり内に4基、2号ふ頭南南東方の第1西防波堤内内側直近に1基の係船浮標がある。また、大剣ふ頭南西方の3号危険物棧橋北側に1基の係船浮標がある。

架橋 3号ふ頭と同ふ頭南東方の埋立地との間に小名浜マリブリッジ(高さ約24m)がある。

最大入港船舶 2020年5月28日、タンカー 新生丸(66,536t)が小名浜石油シーバースに着棧した。

台風・津波対策 台風・津波等による災害を防止するため、小名浜港海上安全対策協議会が設置されており、在港船舶などに対し、情報の伝達及び警戒体制・避難・入港制限の勧告・解除等の災害防止措置を指導している(問合せ先:福島海上保安部)。

海事関係官公署

官公署名	連絡先	官公署名	連絡先
福島海上保安部(小名浜港長、相馬港長)	0246-54-3450	横浜植物防疫所小名浜出張所	0246-53-3402
横浜税関小名浜税関支署	0246-92-5151	福島県小名浜港湾建設事務所	0246-53-7124
東北運輸局福島運輸支局 小名浜庁舎	0246-54-2311	仙台検疫所小名浜出張所	福島空港出張所 0247-57-1233へ連絡

15 引船・通船 引船がある。停泊船への通船がある。

港湾施設

名 称	概 位	長 さ (m)	水 深 (約m)	係 船 能 力 (D/W×隻)	備 考	
外港公共ふ頭A岸壁	35° 57.9' N 140° 41.6' E	280	14	10,000×1	耐震岸壁	
深芝公共岸壁	35° 55.5' N 140° 41.9' E	300	5.5~6	2,000×3		
北公共 ふ 頭	C岸壁	35° 55.6' N 140° 39.2' E	170	10	10,000×1	
	D岸壁	35° 55.7' N 140° 39.2' E	170	10	10,000×1	
	E岸壁		170	10	12,000×1	ガントリークレーン
池向岸壁	35° 54.1' N 140° 40.7' E	114	5		架空線複数あり	
南公共 ふ 頭	A・B岸壁	35° 53.2' N 140° 41.1' E	370	10	15,000×2	
	C～F岸壁	35° 53.0' N 140° 41.1' E	各130	6	5,000×4	
	G・H岸壁	35° 52.9' N 140° 41.3' E	各185	10	15,000×2	

上表のほか、港内各所に会社専用の係船施設が多数ある。

5 架空線 池向岸壁から南西方対岸に至る3送電線(35° 54.0' N 140° 40.6' E、高さ:北から57m・55m・45m)がある。また、北公共ふ頭前面海域に南北の岸壁にかかる送電線(35° 55.5' N 140° 39.6' E、高さ59m)がある。

最大入港船舶 2014年、貨物船VALE BRASIL(198,980t、喫水16m)が日本製鉄原料岸壁に着岸した。

台風・津波等対策 台風等発達した低気圧の接近が予想される場合、また、津波注意報等が発表された場合、鹿島港長が、港外避難勧告等を行う(問合せ先:鹿島海上保安署)。

10 海事関係官公署

官公署名	連絡先	官公署名	連絡先
鹿島海上保安署(港長)	0299-92-2601	横浜植物防疫所東京支所鹿島出張所	0299-92-3404
横浜税関鹿島税関支署	0299-92-2558	茨城県鹿島港湾事務所	0299-92-2111
関東運輸局茨城運輸支局鹿島海事事務所	0299-92-2604	東京出入国在留管理局水戸出張所	(水戸市)
東京検疫所鹿島出張所	0299-92-2603		029-300-3601

引船・通船 引船・通船がある。

補給 清水の補給ができる。

医療施設

名 称	電 話 番 号	備 考
白十字総合病院	0299-92-3311	

15

犬吠埼付近 (35° 43' N 140° 52' E) (海図W57、W1050)

概要 この項には、利根川河口からその西南西方約7Mの屏風ヶ浦西端までについて記載する。

犬吠埼は、利根川河口南側に突出する半島の埼で、その東岸は砂浜が多く、南岸は上層が赤土に覆われた高さ約20~40mの黒色のがけである。

20 この埼は東端を犬吠埼、南東端を長崎鼻、南西端を犬若鼻といい同鼻の東側に外川漁港、北西側に名洗港(35° 42' N 140° 50' E)がある。

屏風ヶ浦は、長さ約5Mの険しいがけ海岸である。犬吠埼の周辺一帯は、小島や岩礁が多く近寄るのは危険である。がけはレーダによく映る。屏風ヶ浦の前面は遠浅でいそ波が高い。

霧は5月下旬~8月末頃まで発生し、最も多いのは7月である。日中には消えるが、南寄りの風の時は一

止区域がある。(第 41 図、212 ページ参照)

航泊制限 引火性危険物積載タンカーの引火による事故を防止するため、一般船舶は、港内に停泊中の引火性危険物積載タンカーから 30m 以内の海面に立ち入ることを制限されている。なお、同タンカーは、港内停泊中、「引火性危険物積載中」の垂れ幕等を掲げている。(令和 3 年 4 月 1 日 港長公示第 3-1 号)

5 **航行制限** 鶴見航路、川崎航路及び京浜運河における航行は、昼間総トン数 1,000 t 以上の船舶は原則として鶴見航路から入航し、川崎航路から出航する一方通行となっている。

ただし、総トン数 5,000 t (京浜運河第 4 区及び大師運河への入航については総トン数 1,000 t) 以上の船舶、油送船及び港長の認めた船舶は、京浜運河第 3 区以東の管制区及び枝運河に限り川崎航路から入航し、また、京浜運河第 2 区以西の管制区及び枝運河に限り、鶴見航路から出航できる。

10 **錨地** 検疫錨地は、横浜区第 3 区の横浜航路北側及び川崎区第 2 区の東扇島南東方にある。また、危険物積載船錨地は、横浜区第 3 区、第 5 区及び川崎区第 2 区に指定されている。(第 41 図、212 ページ参照)

港湾施設

名 称	概 位	長 さ (m)	水 深 (約m)	係船能力 (D/W×隻)	備 考	
金沢木材ふ頭	35° 22.4' N 139° 39.2' E	187	12	15,000×1	在来船バース 耐震岸壁	
南本牧ふ頭	MC1	35° 24.2' N 139° 40.8' E	350	16	105,000×1	コンテナターミナル ガントリークレーン
	MC2	35° 24.1' N 139° 40.7' E	350	16	105,000×1	
	MC3	35° 24.0' N 139° 41.0' E	400	18	158,000×1	
	MC4	35° 23.9' N 139° 40.8' E	500	18	158,000×1	
本牧ふ頭	A 突堤基部	35° 26.6' N 139° 39.9' E	100	5.5	2,000×1	内航船バース
	A1~3	35° 26.8' N 139° 40.0' E	200×3	8.5~10	15,000×3	在来船バース
	A5・6	35° 26.9' N 130° 40.4' E	300×2	12~13	35,000×2	コンテナターミナル ガントリークレーン
	A7・8	35° 26.6' N 139° 40.2' E	250×2	12	25,000×2	
	B1	35° 26.4' N 139° 40.3' E	200	10	15,000×1	在来船バース
	B2~4	35° 26.6' N 139° 40.4' E	200×3	11	15,000×3	
	BC1	35° 26.5' N 139° 40.7' E	390	12~16	60,000×1	専用コンテナバース ガントリークレーン 耐震岸壁
	C5~9	35° 26.2' N 139° 40.7' E	200×5	13	15,000×5	コンテナバース
	D1	35° 26.0' N 139° 40.8' E	400	13	40,000×1	
	D4	35° 26.3' N 139° 41.0' E	400	16	40,000×1	専用コンテナバース 耐震岸壁
	D5	35° 26.4' N 139° 41.1' E	300	16	60,000×1	
	新建材 1 号	35° 25.6' N 139° 41.0' E	185	10	12,500×1	建材専用バース
	新建材 2 号		145	9	5,000×1	
山下ふ頭	1 号	35° 26.8' N 139° 39.2' E	180	10	15,000×1	在来船バース
	2 号	35° 26.9' N 139° 39.3' E	200	12	20,000×1	
	3 号	35° 27.0' N 139° 39.4' E	220	12	25,000×1	
	4 号	35° 27.0' N 139° 39.5' E	180	10	15,000×1	
	5 号	35° 27.0' N 139° 39.6' E	180	10	15,000×1	
	6~8 号	35° 26.9' N 139° 39.7' E	180×3	10	15,000×3	
	9・10 号	35° 26.9' N 139° 39.9' E	180×2	9~10	15,000×2	
大栈橋ふ頭	A・B	35° 27.1' N 139° 38.9' E	225×2	12	30,000×2	公共客船バース
	C	35° 27.2' N 139° 38.9' E	350	10~11	30,000×1	
	D	35° 27.1' N 139° 38.8' E	100	10	30,000×1	

新港ふ頭	5号	35° 27.3' N 139° 38.6' E	202	7	10,000×1	在来船バース
	8号	35° 27.4' N 139° 38.6' E	145	7~8.5	10,000×1	
	9号	35° 27.4' N 139° 38.5' E	340	9.5	70,000t×1	
山内ふ頭		35° 27.9' N 139° 38.2' E	130	6.5~7.5	5,000×1	在来船バース 耐震岸壁
瑞穂ふ頭岸壁		35° 28.2' N 139° 39.3' E	170	10	10,000×1	在来船バース
出田町ふ頭	A・B	35° 28.6' N 139° 38.8' E	135×2	6~6.5	5,000×2	在来船バース
	C・D	35° 28.6' N 139° 39.0' E	123×2	6~8	5,000×2	
大黒ふ頭	C1・2	35° 28.1' N 139° 40.8' E	300×2	12~13	35,000×2	多目的ターミナル
	C3	35° 27.5' N 139° 41.6' E	350	15	54,500×1	コンテナターミナル
	C4	35° 27.6' N 139° 41.8' E	350	15	57,500×1	外貨定期船ターミナル
	L1・2	35° 28.2' N 139° 41.1' E	200×2	10	15,000×2	
	L3・4	35° 28.3' N 139° 41.4' E	200×2	10	15,000×2	
	L5~7	35° 28.0' N 139° 41.2' E	200×3	12	15,000×3	内航船バース
	L8	35° 27.8' N 139° 41.6' E	200	12	15,000×1	
	P1・2	35° 27.6' N 139° 40.5' E	130×2	7.5	5,000×2	多目的バース
	P3	35° 27.5' N 139° 40.7' E	130	7.5	5,000×1	
	P4	35° 27.4' N 139° 41.7' E	130	5.5~12	5,000×1	外貨定期船ターミナル
	T1・2	35° 27.7' N 139° 41.4' E	240×2	12	30,000×2	
	T3~6	35° 27.3' N 139° 41.1' E	185×4	10	15,000×4	外貨不定期船バース
	T7・8	35° 27.2' N 139° 41.4' E	185×2	10	15,000×2	
	T9	35° 27.4' N 139° 41.4' E	240	11.5~12	30,000×1	コンテナバース
川崎市営ふ頭 (千鳥町)	1号岸壁	35° 30.9' N 139° 45.0' E	120	6	3,000×1	
	2号栈橋	35° 30.8' N 139° 45.0' E	172	9	10,000×1	
	3号栈橋	35° 30.7' N 139° 45.0' E	190	10	15,000×1	
	4号栈橋	35° 30.6' N 139° 45.1' E	220	9.5	15,000×1	
	5号栈橋	35° 30.5' N 139° 45.2' E	211	10	15,000×1	
	6号栈橋	35° 30.5' N 139° 45.3' E	209	10	15,000×1	
	7号栈橋	35° 30.6' N 139° 45.4' E	180	10	15,000×1	
東扇島岸壁	1・2号	35° 29.6' N 139° 45.6' E	各185		15,000×2	
	3・4号	35° 29.6' N 139° 45.8' E	各240	12	30,000×2	
	5・6号	35° 29.7' N 139° 46.1' E	各240	12	30,000×2	
	7・9号	35° 29.9' N 139° 46.5' E	各240	12	30,000×3	
	21~23号	35° 30.2' N 139° 45.4' E	各130	7.5	30,000×3	
	24・25号	35° 30.3' N 139° 45.8' E	各130	7.5	30,000×2	
	26~28号	35° 30.4' N 139° 45.9' E	各130	5.5~7.5	30,000×3	
	29~31号	35° 30.4' N 139° 46.1' E	各130	6~7.5	30,000×3	
A~D		35° 29.7' N 139° 45.5' E	270		700×4	
コンテナ岸壁1号		35° 29.3' N 139° 45.3' E	431	14	50,000×1	

上表のほか、横浜区、川崎区の各区内に会社専用の係留施設が多数ある。

シーバース

名称	概位	水深 (約m)	係船能力 (D/W)	備考
川崎シーバース	35° 28.0' N 139° 46.1' E	28	315,000	シーバース灯、レーダ反射器付大型係船浮標、半径300m円内海域には、錨鎖が延びている。
東京ガス扇島 LNGバース	35° 27.7' N 139° 43.1' E	15~16	74,000	長さ約410m、中央にシーバース灯(本灯)がある。本灯の北北東、南西及び北西方に副灯が3基あり、同期している。

潮風ふ頭	27～29号岸壁	35° 04.4' N 136° 51.7' E	405	5.5～10	2,000×1 5,000×1 15,000×1	石炭用 (28, 29号耐震岸壁)
	31号岸壁	35° 04.3' N 136° 51.6' E	60	3.5～5	700×1	石炭・鉄産品用
	32号岸壁	35° 04.3' N 136° 51.7' E	130	7.5	5,000×1	石炭・鉄産品用
	33号岸壁	35° 04.2' N 136° 51.7' E	185	10	15,000×1	石炭・鉄産品用
空見ふ頭	95～97号岸壁	35° 04.2' N 136° 51.5' E	540	5～5.5	700×1 1,500×1 2,000×4	鋼材用
	50号岸壁	35° 03.4' N 136° 51.3' E	180	10	15,000×1	雑貨用
	51号岸壁	35° 03.4' N 136° 51.3' E	120	4.5	700×2	雑貨用
	70号岸壁	35° 03.7' N 136° 50.6' E	360	5.5	2,000×4	雑貨用
金城ふ頭	52・53号岸壁	35° 03.2' N 136° 51.2' E	497	8.5～12	35,000×2	自動車用
	54～57号岸壁	35° 02.8' N 136° 51.2' E	800	10	15,000×4	自動車用
	58～62号岸壁	35° 02.6' N 136° 50.9' E	1,000	10	15,000×5	雑貨・自動車用
	71号岸壁	35° 03.4' N 136° 50.5' E	450	—	2,000×5	雑貨用
	72～75号岸壁	35° 03.2' N 136° 50.3' E	520	5～6	5,000×4	雑貨用
	76・77号岸壁	35° 03.0' N 136° 50.3' E	400	10～10.5	10,000×1 20,000×1	コンテナ用
	78・79号岸壁	35° 02.8' N 136° 50.4' E	400	10	15,000×2	重量物・自動車用
	80・81号岸壁	35° 02.6' N 136° 50.5' E	400	10	15,000×2	雑貨・自動車用
	82～84号岸壁	35° 02.3' N 136° 50.6' E	600	9～10	15,000×3	雑貨用
弥富ふ頭	6号岸壁	35° 01.8' N 136° 47.9' E	270	12	30,000×1	雑貨・自動車用
	7号岸壁	35° 01.8' N 136° 47.8' E	240	12	30,000×1	雑貨・自動車用
	88・89号岸壁	35° 02.2' N 136° 48.0' E	260	7.5	5,000×2	木材・雑貨用
鍋田ふ頭 T1・T2岸壁		35° 01.5' N 136° 48.5' E	700	13～14	50,000×2	コンテナ用 (耐震岸壁)、ガントリークレーン
鍋田ふ頭 T3岸壁		35° 01.6' N 136° 47.4' E	250	12	30,000×1	コンテナ用、ガントリークレーン
飛島ふ頭	90～92号岸壁	35° 02.8' N 136° 49.9' E	620	10～12	15,000×2 35,000×1	コンテナ用、ガントリークレーン
	93・94号岸壁	35° 02.0' N 136° 50.2' E	700	14～15	50,000×2	コンテナ用、ガントリークレーン
	TS1岸壁	35° 01.6' N 136° 49.2' E	350	16	108,500×1	コンテナ用 (耐震岸壁)、ガントリークレーン
	TS2岸壁	35° 01.6' N 136° 49.4' E	400	16	108,500×1	コンテナ用 (耐震岸壁)、ガントリークレーン
	98・99号岸壁	35° 02.3' N 136° 48.6' E	370	10	15,000×2	木材用
潮見ふ頭 BX 栈橋		35° 03.8' N 136° 52.8' E	200	3.5	300×20	小型油送船施設
横須賀ふ頭 86号岸壁		35° 00.6' N 136° 52.2' E	420	4～4.5	700×7	建設用資材用
北浜ふ頭 87号岸壁		35° 00.3' N 136° 52.0' E	240	4.5	700×4	軽工業品用

上表のほか、各地に各会社専用の係船施設が多数ある。

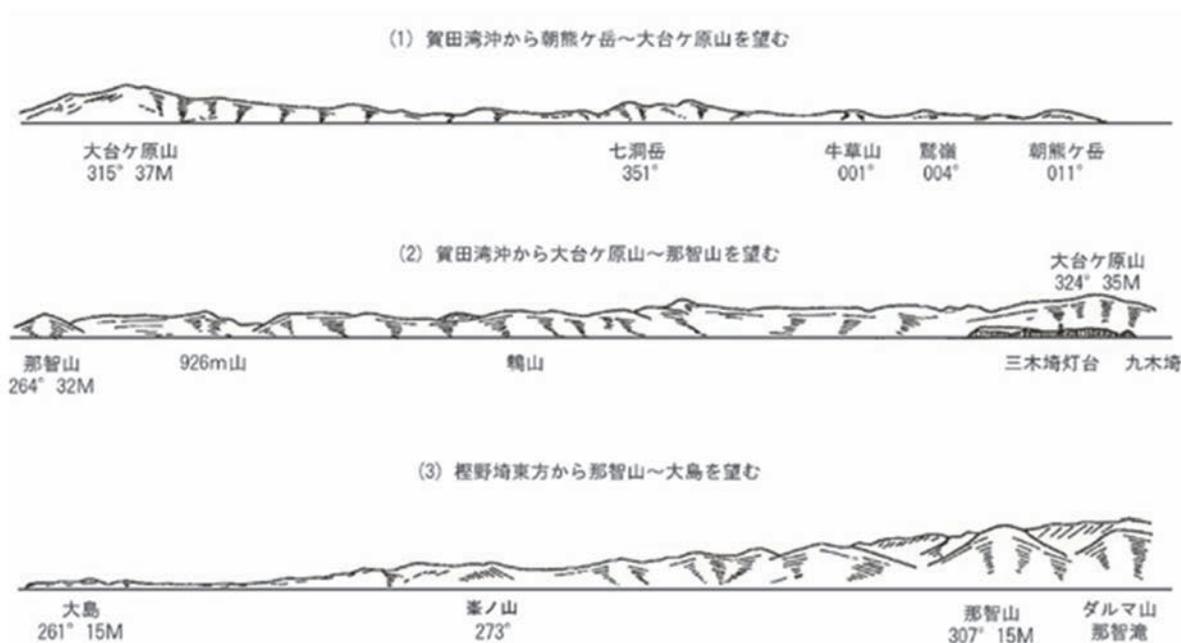
伊勢湾シーバース 名古屋港～四日市港間のほぼ中央 (34° 55.6' N 136° 44.4' E) にあり、310,000D/W級が係留でき、レーダ反射器付シーバース灯及び4副灯 (南端の副灯にホーン付設) がある。

5 係船浮標 第4区木材泊地には8基 (15,000D/W級用) が設置してある。

架橋・架空線

名 称		概 位		桁下(m)	区 間
架 橋	名港西大橋	35° 03.1' N	136° 50.0' E	32～39	木場金岡ふ頭～金城ふ頭
	名港中央大橋	35° 03.2' N	136° 51.6' E	45～55	金城ふ頭～潮見ふ頭
	名港東大橋	35° 03.2' N	136° 52.7' E	40	潮見ふ頭～新宝ふ頭
架空線	送電線 (電力)	35° 03.9' N	136° 53.0' E	高さ 40	潮見ふ頭～新宝ふ頭
		35° 04.1' N	136° 52.9' E	高さ 9.3	潮見ふ頭～船見ふ頭南西端

紀伊半島南東岸対景図



熊野川河口～梶取埼 (海図 W46)

- 5 **概要** この約 9.5M間の沿岸には、三輪崎湾、那智湾、勝浦湾が並び、これらの諸湾の内外には小島や岩礁が多い。
- 那智湾** (33° 38′ N 135° 58′ E) 湾口は東方に大きく開いている。西～北風のと看避泊地となる。駒ヶ埼 (33° 39′ N 135° 59′ E) から南方約 1.1M間には、小島や浅礁が並んでおり、その東方には定置網 (10月～翌年7月) があるので注意を要する。
- 10 **錨地** 大平石 (目標の項、344 ページ参照) 南端を 108° に、山成島 (高さ 20m) 西端を 170° に見る水深 18mの所にある。入泊する場合には、湾口南側の綱切島 (33° 38.0′ N 135° 57.5′ E、高さ 1.4mの水上岩)、湾内北東部の根子《ネジ》島 (33° 38.9′ N 135° 57.7′ E、高さ 8mの水上岩) の南東方約 160mにあるシラ磯 (33° 38.8′ N 135° 57.8′ E、最小水深 7.9mの暗岩) 及び湾奥の礁脈に注意を要する。
- 勝浦湾** (33° 37′ N 135° 57′ E) 勝浦港、森浦湾、太地湾の 3 支湾に分かれる。
- 15 勝浦湾の内外には小島や岩礁が非常に多い。また、燈明埼北方及び北東方には定置網 (5月～12月、10月～翌年7月) があるので注意を要する。
- 森浦湾** 勝浦湾の西の支湾で、東方に開き暗礁が多くて好錨地ではないが、湾内が広く東風のほかは錨泊できる。入湾する場合には太刀落ノ瀬沖 (33° 36.5′ N 135° 57.1′ E、最小水深 1.4mの暗岩)、上薬師 (最小水深 2.1mの暗岩)、カミノヤマ出シ (最小水深 2.8mの暗岩) などを避航しなければならない。湾奥部に真珠の養殖施設がある。
- 20 **太地湾** 勝浦湾の南支湾で、北東方に開いている。
- 湾内の大部分は岩礁にふさがれ、南西奥の太地漁港に至る水路がある。

梶取埼～潮 岬 (海図 W46、W93、W99)

概要 この間は、北東部に浦神港が湾入し、南西端に潮岬半島が突出して、その東方の大島 {通称「紀伊大島」と呼ばれる。} との間に串本港を囲むほかは、所々に小岬角があるだけで変化が少なく、海岸はおおむね石浜である。内陸の山地は比較的低い。

大島の北方対岸の古座川河口に古座西向港がある。

この沿岸は小島や岩礁が多いが、檜野埼北東方の上瀬 (33° 29.7' N 135° 53.3' E、水深 4.1mの岩) を除けば、いずれも距岸 1M以内にある。

檜野埼及びその西方約 1Mの黒鼻付近に定置網がある。

10 目標

地物名	概 位	備 考
森戸埼	33° 31.6' N 135° 52.7' E	埼頂 (高さ 72m) に松林があつて、見分けやすい。
重畳《カサネ》山	33° 31.4' N 135° 47.5' E	高さ 302m、南方の潮岬付近沖合からは、黒色の鋭峰に見え顕著である。
九竜《クロ》島	33° 30.3' N 135° 49.6' E	高さ 39m、険しいがけの島で、樹木が茂っている。
大森山	33° 28.4' N 135° 49.6' E	大島の島頂で高さ 171m、 山頂に顕著な 2 ドーム (薄緑色、遠くからは白く見える) がある。
檜野埼	33° 28.3' N 135° 51.7' E	がけの埼、灯台がある。
出雲埼	33° 26.7' N 135° 47.8' E	高さ 38m、埼端の北北東方約 500mの鵜島 (高さ 6m、南端に灯台がある) がある。
潮 岬	33° 26.3' N 135° 45.3' E	平らな頂の高い岬、灯台がある。

串本港 (33° 28' N 135° 48' E) (海図 W99) (JP KUJ)



(2018年5月撮影)

15 概要 紀伊半島南部にある港則法適用港である。港内の西側に串本漁港、東側に大島漁港 (33° 28.5'

N 135° 48.3′ E) 及び港湾法上の**大島港** (33° 28.3′ N 135° 48.0′ E) がある。

この港は、諸風波を防ぐ好避泊地で、特に台風時の避泊地として好適である。

気象 冬季は西～北西の風が多い。その他の季節は北東～東の風が多く、北東風が強いときには港内に波浪が進入する。

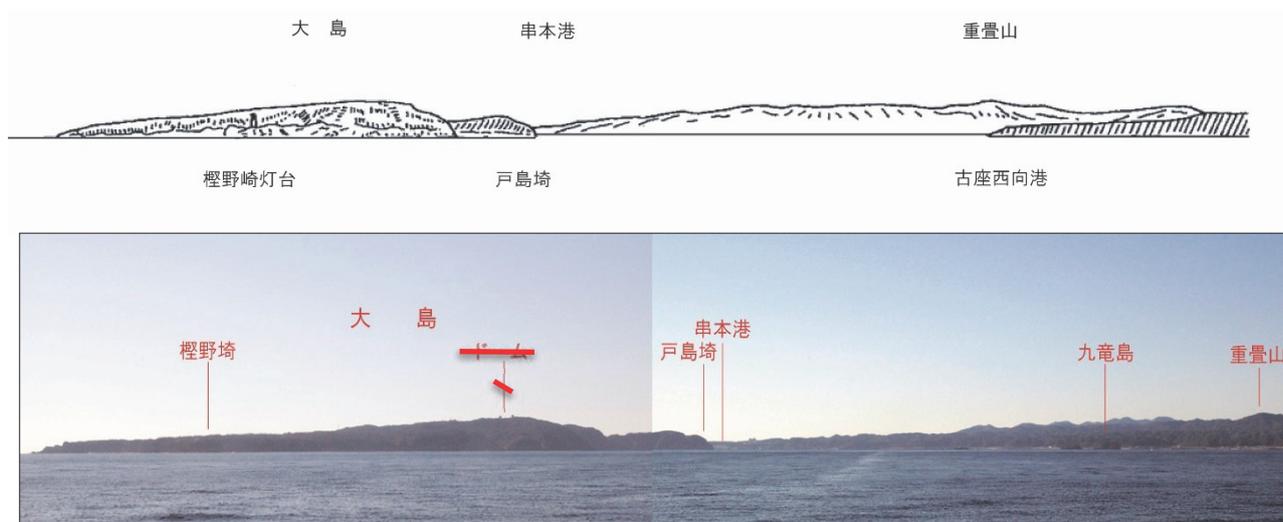
5 **潮汐** この港における平均高高潮は1.5m、平均低低潮は0.4m、平均水面は1.05mである。

目標

地物名	概位	備考
橋杭岩	33° 29.1′ N 135° 47.7′ E	くいを一列に立てた形をした奇形の列岩で、最南端は一ノ島(高さ8m)、中央付近の弁天島が最大である。夜間照明灯で照らされる。
無線塔	33° 27.5′ N 135° 47.1′ E	高さ128m、頂部に2赤灯がある。

串本港付近対景図

大島北東方から串本港口を望む



10

針路法

東方から上瀬南方経由

1 九竜島 (33° 30.3′ N 135° 49.6′ E) を 296° に見て進み、榎野崎灯台正横で、269° に変針して弁天島 (33° 29.1′ N 135° 47.8′ E) に向首する。

15 2 大島西部の戸島崎灯台を正横に見て航過した後、240° に変針して宮川至近の体育館 (33° 28.3′ N 135° 47.0′ E) に向首する。

3 橋杭岩南端の一ノ島 (33° 28.9′ N 135° 47.8′ E) を正横に見て、橋杭岩南東方の浅所 (33° 28.7′ N 135° 48.0′ E、水深 5.8m) {針路上は水深 7.9m、北西側が深い} を航過したならば適宜錨地に向かう。

20 北方から上瀬北方経由

1 大島北西端付近の金山 (高さ 117m) に向けて針路 244° で進み、箱島 (33° 29.8′ N 135° 49.9′ E) の南方を航過した後、弁天島に向首して針路 270° で進む。

針路法

南方から入る船舶

番所鼻の西北西方約 0.7Mにある**杓子岩** (33° 41.7' N 135° 19.1' E、暗岩) を十分に離して、番所鼻
灯台を 125° に見る所から、会津川河口付近の田辺港大浜導灯 (33° 43.7' N 135° 22.4' E (前灯)、33°
5 43.8' N 135° 22.5' E (後灯)) 2 灯一線 (065.6°) 上を進む。

田辺港齊田山導灯の前灯 (33° 43.6' N 135° 21.4' E) を正横に見る所から右転して錨地に向かう。

桶島 (33° 43.0' N 135° 22.1' E、干出岩) 周辺に拡張する險礁に注意を要する。

文里港に入るには、田辺港江川西防波堤灯台 (33° 43.6' N 135° 21.7' E) の南方から田辺港黒埼導灯
10 (33° 42.5' N 135° 23.6' E (前灯、後灯共)) 2 灯一線 (120.6°) 上を進み、前記の諸險礁に注意して適宜
錨地に向かう。

港口が狭く、変針点付近に險礁が散在するので、夜間の入港は特に注意を要する。

北方から入る船舶

昼間は番所鼻南東方の**高島南頂** (33° 41.4' N 135° 20.2' E、高さ 33m) と権現山頂 (高さ 40m) と
を一線に見る 130° の針路で進み、田辺沖ノ島灯台 (33° 43.1' N 135° 19.6' E) 正横付近で左転して、
15 田辺港大浜導灯の 2 灯一線 (065.6°) 上を進み、前記針路法に従って入港する。

大浜導灯は市街地の灯に紛れることがある。天候不良のため、大浜導灯が視認できないときは、なるべく
入港を見合わせ、天候の回復を待つのがよい。

海難 港口北側及び南側の各浅礁には船舶の乗揚げ事故が多い。

錨地 田辺港黒埼導灯 (前灯) を 125° 1.4Mに見る水深 7.5m前後の所は、底質が泥で好錨地である。

20 小型船には第 1 区、**毛見島** (33° 42.6' N 135° 23.2' E) の西方海域が好錨地であるが、同島から西方
に延びる險礁及び神楽島 (33° 42.6' N 135° 22.2' E、高さ 3m) 北側の險礁に注意を要する。

文里泊地内は水深 3~7m、底質は泥で、風波をよく防ぎ、荒天時の小型船の好避泊地であるが、泊地中央
部に險悪物がある。

危険物積載船錨地は、第 3 区に指定されている。

25 **港湾施設**

名 称	概 位	長さ (m)	水深 (m)	係船能力 (D/W×隻)	備 考
文里区	第 1 棧橋	33° 42.9' N 135° 23.6' E	100	4	1,500×1
	第 2 棧橋	33° 43.0' N 135° 23.6' E	50	4.5	500×1 浮棧橋
新文里区	磯間第 1 岸壁	33° 43.1' N 135° 23.0' E	120	3.5	500×2
	磯間第 2 岸壁	33° 42.9' N 135° 23.1' E	100	5.5	2,000×1 耐震強化岸壁

最大入港船舶 2002 年 9 月 30 日、貨物船 第 18 大盛丸 (699 t) が新文里区磯間第 1 岸壁に着岸した。

30 **台風・津波対策** 災害による事故を未然に防止するため、紀南地区海上安全対策協議会台風・地震・津
波等災害対策委員会を設置し、在港船舶などに対し、災害防止措置を指導している (問合せ先：田辺海上保
安部)。

海事関係官公署

官公署名	連絡先	官公署名	連絡先
田辺海上保安部（港長）	0739-22-2001	和歌山県西牟婁振興局 建設部総務調整課	0739-26-7921

補給 江川泊地で清水、燃料油、氷、新文里泊地で清水の補給ができる。

医療施設

名称	電話番号	備考
紀南病院	0739-22-5000	
田辺中央病院	0739-24-5333	
南和歌山医療センター	0739-26-7050	

5

切目埼～日ノ御埼（海図 W77）

切目埼～日ノ御埼の間は、比較的出入りが少なく、切目埼北西側の印南《イナミ》と日ノ御埼東側に小湾入部があるにすぎない。海岸は石浜が多く、切目埼～鰹島（高さ 4.7m）間の距岸 0.5M以内には岩礁が多い。

日ノ御埼の東北東方約 1Mにある小湾（33° 53′ N 135° 05′ E）は、南寄りの風が強吹するとき以外、避泊に利用できる。湾内東部に日高港がある。湾北岸の距岸 100m以内は暗岩が多いから注意を要する。

10

目標

地物名	概位	備考
真妻《マツマ》山	33° 53.3′ N 135° 16.5′ E	高さ 523mのはげ山
日ノ御埼	33° 52.9′ N 135° 03.6′ E	険しいがけの埼で、灯台があり、その北東方至近の日ノ山（高さ 202m）は顕著である。

日高港（33° 52′ N 135° 09′ E）（海図 W77）（JP HDK）



(2018年5月撮影)

15

港種 港則法適用港、植物防疫の港

概要 日ノ御埼の東方約 5M、日高川河口にある。港域の中央南側の王子川河口付近に塩屋ふ頭があり、

第 2 節 室戸岬～足摺岬 (海図 W108)

概要 室戸岬～足摺岬間の海岸は、湾入約 30Mのほぼ半円形状の大湾を成し、土佐湾と称している。

同湾の北東側は比較的变化が少なく、北西側は屈曲して高知港、浦ノ内湾及び須崎湾が深く湾入し、西側には大小の湾入部がある。

陸部は高知付近に平野があるほかは、おおむね山地が海に迫っている。

20m等深線は、湾奥の白ノ鼻以東では室戸岬付近を除きおおむね距岸 1M前後にあるが、白ノ鼻以西では湾入部を除きおおむね 0.5M以内にある。須崎湾付近を除き、距岸 1M以遠に険礁はない。

湾内の距岸約 2M以内には、定置網がある。また、シイラ漬漁業が盛んで、沿岸域にシイラ漬漁業のための長さ約 10mの竹の束を海底から固定し、標識旗、自然木の目印を立てている。このまわりで漁船による引き縄釣り、網漁業が行われている場合があるので、航行には注意を要する。(第 1 編 総記 第 7 章 航行に関する諸注意 「漁業」の項、23 ページ参照)

気象 室戸岬では年間を通じて北東の風が卓越している。また、風速は極めて強く、風速 10m/s 以上の日数は年間ではほぼ 250 日を越える。一方、高知では年間を通じて西の風が卓越し、年間の平均風速は 2m/s 以下と極めて弱い。足摺岬(清水)では、風向は季節によって変化が大きく、春、秋季は北北東の風が多く、夏季は西又は東の風、冬季は北寄りの風が多い。

避泊地 須崎湾 (33° 20' N 133° 17' E) は、四国南岸で唯一の大型船舶の避泊地である。

室戸岬～下竜頭岬 (海図 W108)

概要 室戸岬～下竜頭岬間の海岸は屈曲が少なく、室戸岬～奈半利川河口 (33° 25' N 134° 01' E) の間は岩海岸又は石浜で、それから西方は一部の砂浜である。陸部は手結岬以西にやや広い平野があるほかは、諸河川の河口付近を除き、一部の山地で、山が海岸に迫っている。

10m等深線は岸に近くおおむね距岸 500m以内であり、安芸川河口沖の高礫 (33° 29.0' N 133° 53.3' E、水深 2.3m)、高知港外の三本松 (33° 30.9' N 133° 36.5' E、水深 4.4mの岩)、高礫 (33° 30.8' N 133° 36.5' E、水深 4.4mの岩) のほか、10m等深線の外方に険礁はない。

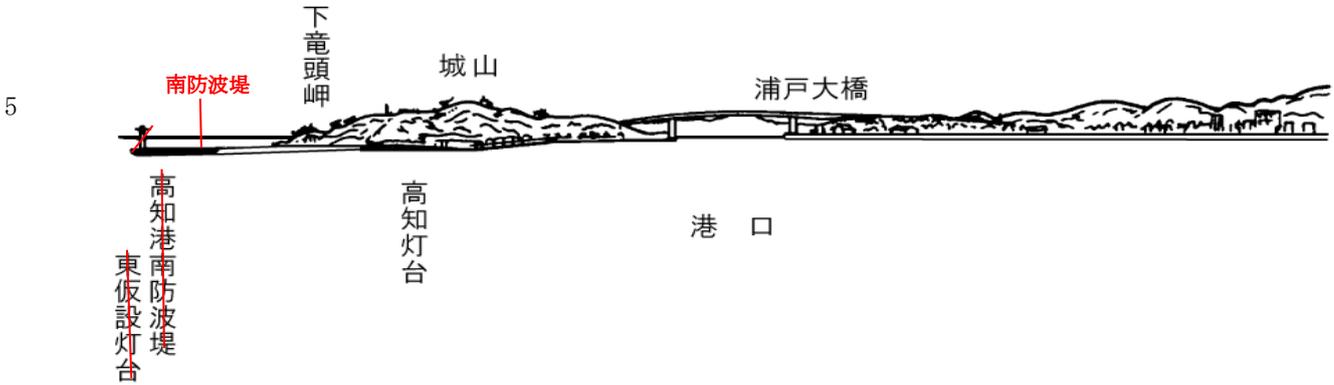
羽根崎の北北西方に奈半利港 (港則法適用港) (JP NHI) がある。また、手結岬の北側に手結《テイ》港がある。

目標

地物名	概 位	備 考
行当崎	33° 17.6' N 134° 06.7' E	岩の崎で、崎上に黒色の森がある。
笠木山	33° 21.5' N 134° 06.9' E	高さ 598m
羽根崎	33° 22.4' N 134° 02.3' E	灯台がある。
旭ヶ丘	33° 28.7' N 133° 58.7' E	高さ 632m
手結《テイ》岬	33° 31.3' N 133° 45.4' E	岬上に灯台がある。
秋葉山	33° 36.3' N 133° 45.3' E	高さ 490m、鋭頂で頂上に森がある。
下竜頭岬	33° 29.8' N 133° 34.4' E	岬上に高知灯台がある。至近の城山(高さ 60m)は、高知港入港時の好目標である。
烏帽子山	33° 31.6' N 133° 31.0' E	高さ 359m、頂上付近に無線塔がある。

は徐々に左転し航路入口に向かい、以後航路に沿って進み各泊地に至る。

高知港口対景図



10 港則

<p>航行に関する注意 (港則法施行規則第 43 条)</p>	<p>1 総トン数 1,000 t (油送船にあつては、総トン数 500 t) 以上の船舶は、高知港御豊瀬灯台 (33° 30′ 26″ N 133° 33′ 34″ E) から 090° に引いた線以南の航路 (以下この項及び別表第 4 において「高知水路」という) を航行して入航し、又は出航しようとするときは、港則法第 38 条第 2 項各号に掲げる事項 (同項第 3 号に掲げる事項は、入航しようとするときにあつては高知水路入口付近に達する予定時刻とし、出航しようとするときにあつては運航開始予定時刻とする。) を、それぞれ入航予定日又は運航開始予定日の前日正午までに港長に通報しなければならない。</p> <p>2 前項の事項を通報した船舶は、当該事項に変更があつたときは、ただちに、その旨を港長に通報しなければならない。</p> <p>(参考) 港則法第 38 条第 2 項各号に掲げる事項</p> <ol style="list-style-type: none"> (1) 当該船舶名称 (2) 当該船舶の総トン数及び長さ (3) 当該水路を航行する予定時刻 (4) 当該船舶の連絡手段 (5) 当該船舶が停泊し、又は停泊しようとする当該特定港のけい留施設
-------------------------------------	---

信号 桂浜信号所 (33° 30′ 00″ N 133° 34′ 30″ E)、浦戸大橋西方に浦戸信号所 (33° 29′ 54″ N 133° 33′ 41″ E) で航行管制信号を行っている。高知水路を航行する一定の船舶は、次表のとおり、各信号所で行う信号に従って航行しなければならない。(港則法施行規則第 20 条の 2、別表 4)

港湾施設

名 称	概 位	長 さ (m)	水 深 (約m)	係 船 能 力 (D/W×隻)	備 考	
港町岸壁	-10m岸壁	33° 23.8' N 133° 17.5' E	185	6~10	15,000×1	北からの順
	-7.5m岸壁	33° 23.7' N 133° 17.6' E	260	6	5,000×2	-6m岸壁との境界付近に水深3.4mの浅所がある。
	-6m岸壁		105	5~6	3,000×1	
	-5.5m岸壁	33° 23.6' N 133° 17.7' E	180	4~5.5	2,000×2	
大峰岸壁	33° 23.9' N 133° 17.8' E	165	8.5	10,000×1		

上表のほか、港内東部、港口西角の内方に各会社専用の係船施設がある。

海事関係官公署

官 公 署 名	連 絡 先	官 公 署 名	連 絡 先
神戸税関高知税関支署須崎出張所	0889-42-0333	高知県須崎土木事務所	0889-42-1700

5 引船・通船 引船・通船がある。

補給 主な係船岸で清水、燃料油及び氷が補給できる。

修理 4 造船所があり、50 t 以下の船舶の修理ができる。

興津埼～足摺岬（海図 W108）

10 概要 この間は、興津埼、井ノ岬及び布埼が南東方へ突出し、その南西側にそれぞれ湾を形成する。

井ノ岬の南西方約 7.5Mに四国南岸第一の大河である四万十川が注いでいる。陸部は高い山地が水際まで続き、海岸はがけ又は岩の所が多い。

この沿岸の岸近くには岩礁が多いが、距岸 1M以遠には水深 10m以下の險礁はない。

この沿岸には良い港湾は少なく、300 t 級の船舶が着岸できるのは下田港だけであり、また、井ノ岬の北方
15 に佐賀港（港則法適用港）（JP SGA）が、西北西方に上川口港（港則法適用港）（JP KMW）があり、上川口港には、100 t 級 3 隻、300 t 級 1 隻が避泊できる。

目標

地 物 名	概 位	備 考
井ノ岬	33° 01.5' N 133° 05.7' E	灯台がある。岬頂付近に無線塔（高さ 157m）がある。
石見寺山	33° 00.9' N 132° 57.3' E	高さ 411m、鋭峰で、沿岸航行船の好目標
葛籠《ツヅラ》山	32° 54.5' N 132° 57.9' E	高さ 471m、樹木に覆われ顕著
布 埼	32° 51.8' N 133° 59.6' E	埼上に灯台がある。
窪 津 埼	32° 47.2' N 133° 00.1' E	灯台及び照射灯があり、照射灯は東北東方約 440mのユスガ簪を照らす。
足 摺 岬	32° 43.4' N 133° 01.2' E	黒色のがけ、灯台がある。岬上に寺院があり、その背後の森は良く茂っている。
白 皇 山	32° 44.7' N 133° 00.1' E	高さ 433m、樹木の茂る円頂山
白滝《シラタキ》山	32° 45.4' N 132° 59.8' E	高さ 447m

20 錨地 興津埼西側の湾（33° 09' N 133° 12' E）は、南方に開いており、北風のときに避泊することができる。

井ノ岬西方の湾（33° 01' N 133° 03' E）は、北風のときに仮泊できる。

下田港 (32° 56′ N 133° 00′ E) (海図 W108) (JP SMO)



(2018年5月撮影)

概要 四万十川河口にある港則法適用港で、砂利の積出しが盛んである。

5 河口のほぼ中央に港口導流堤があり、その奥に長い河口左岸導流堤がある。

河口内の水深は四万十川からの土砂の流入により一定ではない。特に河口から河口左岸の内港船だまり (32° 56.6′ N 132° 59.5′ E) に至る水路は、砂州が移動するため水深の変化が激しく、入港に際しては注意が必要である。

写真中央左側の砂州は一定ではなく、移動するとのことである。

10 船だまり内は風波に安全で、小型船の避泊地となる。

河口右岸に西道埼灯台 (32° 55.8′ N 133° 00.0′ E) があり、同灯台に併設されている北方照射灯は港口導流堤の外端を照らす。

港湾施設

名称	概位	長さ (m)	水深 (約m)	係船能力 (D/W×隻)	備考
内港岸壁	32° 56.5′ N 132° 59.3′ E	300	4.5	700×5	
内港物揚場	33° 56.6′ N 132° 59.5′ E	490	4	—	

錨地 鹿島の南側前面で水深 9~10m、底質泥の所に錨地が得られる。

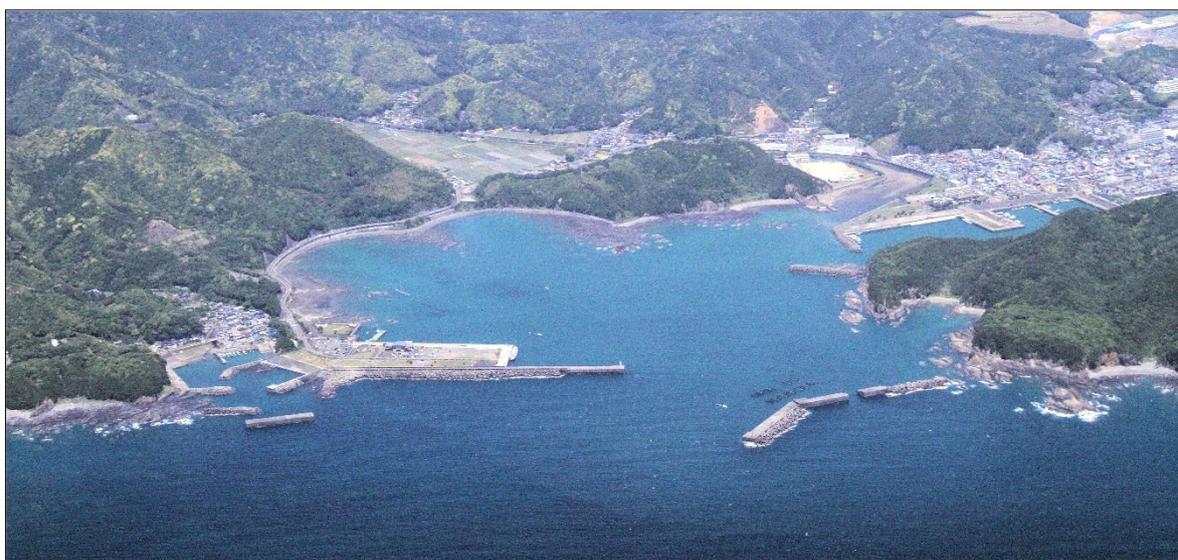
海事関係官公署

官公署名	連絡先	官公署名	連絡先
土佐清水海上保安署	0880-82-0464	高知県幡多土木事務所土佐清水事務所	0880-82-1232

補給 清水、燃料油及び氷が補給できる。

5 **修理** 1 造船所があり、200 t までの船舶の修理ができる。

あしずり港 (32° 47' N 132° 56' E) (海図 W1268)



(2018年5月撮影)

10 **概要** 清水港の西隣にある地方港湾で、港内東側に清水漁港（越地区）がある。

港湾施設

名称	概位	長さ (m)	水深 (約m)	係船能力 (D/W×隻)	備考
あしずり1号岸壁	32° 46.9' N 132° 56.0' E	260	7.5	6,500 t × 2	
あしずり2号岸壁	32° 46.8' N 132° 56.0' E	110	7	1,000 × 1	

上表のほか、あしずり1号岸壁北西端付近に浮き栈橋（長さ50m、耐震移動式）がある。

15 **最大入港船舶** 2004年10月7日、客船 飛鳥（28,865 t、喫水6.71m）があしずり1号岸壁に着岸した。

沖の島（沖ノ島）～高茂埼（海図 W151）

概要 この間は、東方へ約11M湾入する宿毛湾となっている。

宿毛《スクモ》湾 (32° 51' N 132° 33' E) (海図 W1237)

概要 南側の柏島(32° 46' N 132° 37' E)、沖の島(沖ノ島)、姫島、鶴来島と北側の高茂埼との間に湾入する大湾で、背後は山地が連なり、海岸は屈曲して多数の支湾がある。湾奥北東部に**宿毛湾港**がある。湾内は深水で、その大半は水深 50m 以上あるが、湾口北側及び湾奥部には陰礁が多い。湾口南側の諸島間の水道はおおむね深水であるが、視界の悪いときには水道付近の小島や岩礁に注意を要する。湾口北側の**沖ノ磯《オキノソ》**(32° 53.2' N 132° 27.2' E、高さ 15m)、**地ノ磯《ジノソ》**(高さ 25m) 及び付近の干出岩には注意を要する。湾奥の長崎鼻(32° 54' N 132° 42' E)と大島との間の湾入部は水深 30m以下、底質砂泥で、西寄りの風以外のときは、100 t 級の船舶の好錨地であるが、周辺には養殖筏が多数存在するため注意が必要である。

湾の北岸の廻り鼻(32° 54' N 132° 31' E)と黒埼との間の湾は福浦湾、船越湾、久良湾、深浦湾の 4 支湾に分かれ、いずれも避泊地となる。なお、湾内の南東岸には柏島東側泊地 (32° 46' N 132° 38' E) 及び**安满地泊地** (32° 48' N 132° 38' E) があるが、いずれも小型船の泊地となるにすぎない。

湾内の支湾には真珠及びハマチなどの養殖施設がある。

気象 冬季の風向は西～北西で、夏季は南寄りの風で波の立つことは少ないが、これに伴ううねりは大きく、湾奥にも侵入する。霧は少ない。豊後水道を南下して来るときは、宿毛湾外の北方由良岬付近まで霧があっても、この湾内には少なく、入港に支障が生じることはあまりない。

目標

地物名	概 位	備 考
鳥帽子埼	32° 45.3' N 132° 32.7' E	沖の島(沖ノ島)の北端、灯台がある。小樹が茂り、遠くからは黒く見える。
姫 島	32° 44.3' N 132° 29.4' E	高さ 157m、鋭峰状の島でほとんどがけに囲まれ、樹木が茂る。
鶴来《ウグル》島	32° 48.1' N 132° 29.4' E	高さ 251m、鋭頂の島で遠望顕著、東端に灯台がある。
白 埼	32° 51.2' N 132° 39.5' E	白色岩の埼で灯台がある。埼頂の高さ 83m、円形で草に覆われている。
高茂《コウモ》埼	32° 54.4' N 132° 28.3' E	宿毛湾口の北側、黒くて険しいがけを成し、埼上に灯台がある。
廻り鼻	32° 54.2' N 132° 31.0' E	赤色の高いがけの鼻で樹木が茂り、遠望顕著
権現山	32° 55.5' N 132° 29.1' E	高さ 491m、半島の最高峰で、頂に樹木があり、遠望顕著
黒 埼	32° 54.8' N 132° 35.9' E	がけの埼で、付近に多くの岩が乱立する。
天 巖 鼻	32° 55.8' N 132° 34.1' E	埼頂は円頂丘で松の木が密生し、白色の小社があり、鼻上に灯台がある。
大 藤 島	32° 55.0' N 132° 39.4' E	高さ 114m、樹林が茂り非常に顕著
桐 島	32° 55.1' N 132° 39.9' E	高さ 68m、樹木が多く鋭頂を成し顕著
城 鼻	32° 55.2' N 132° 40.3' E	鼻頂の高さ 32m、南東方至近に防波堤がある。

福浦湾(32° 55' N 132° 30' E) 周囲の山地に囲まれて各方向の風を防ぎ、水深 15～70mで全く危険物がなく、常に最良の避泊地となる。湾奥に防波堤(先端に灯台がある)のある**福浦漁港**がある。

船越湾(32° 56' N 132° 32' E) 西方へ湾入する深水の湾で、よく諸風を防ぐ。湾奥の水深 36m付近は好錨地となる。湾奥に防波堤(先端に灯台がある)のある**船越漁港**がある。

久良湾(32° 56' N 132° 34' E) 湾内の水深 20～55mの所は、数隻の船舶が停泊できる平穏な避泊地である。天巖鼻から南東方へ約 700m延びる礁脈があり、その外端にある白石(32° 55.6' N 132° 34.5' E、高さ 3.3m、白柱がある)は天巖鼻灯台の照射灯に照らされる。

深浦湾(32° 57' N 132° 35' E) 東方へ湾入し、湾奥に**深浦港**(**港則法適用港**) (**JP FKR**) がある。

宿毛湾港口



針路法

南方から入る船舶

10 沖の島（沖ノ島）東側の水道を通過後、針路 020° で大藤島頂（高さ 114m）に向けて進み、池島灯台（32° 55.2′ N 132° 41.1′ E）を 043° に見る所から、同灯台に向首し、港口に向かう。

北方から入る船舶

高茂埼（32° 54.4′ N 132° 28.3′ E）南西方の地ノ磯、沖ノ磯等及び付近の干出岩を避けて宿毛湾に入り、黒埼（32° 54.8′ N 132° 35.8′ E）の南方から池島灯台に向け上記針路法に従って入港する。

15 入港上の注意 船舶が航行可能な海域は池島第2防波堤東端から咸陽島までの間（約 400m）となっており、咸陽島付近には干出浜（岩）がある。

錨地 100 t 級の船舶は、大島の南側、土佐長崎鼻灯台（32° 53.7′ N 132° 42.3′ E）から 006° 1,600 m 付近に錨地を得られる。ただし、航路筋に多数の養殖筏が設置されているため、注意を要する。

港湾施設

名称	概位	長さ (m)	水深 (約m)	係船能力 (D/W×隻)	備考
大島岸壁	32° 55.0′ N 132° 42.3′ E	240	3~3.5	700×4	
片島岸壁	32° 55.2′ N 132° 41.7′ E	160	4~4.5	1,000×2	
片島第2岸壁	32° 55.2′ N 132° 41.6′ E	135	4~6	3,000×1	
丸島第1岸壁	32° 55.5′ N 132° 41.5′ E	180	-	700×2	
丸島第2岸壁	32° 55.4′ N 132° 41.5′ E	105	-	3,000×1	
池島岸壁 (4)	32° 55.2′ N 132° 40.7′ E	291	12.5~13	40,000×1	
池島岸壁 (3)		160	7~8	5,000×1	
池島岸壁 (2)		90	4~4.5	700×1	
池島岸壁 (1)		80	4.5	700×1	

20 上表のほか、各島に物揚場がある。また、片島岸壁西岸に会社専用の係船施設がある。

架橋 片島南東端から大島東端にかけて大島橋（32° 55.1′ N 132° 42.2′ E、高さ 2.4m）がある。

最大入港船舶 2014年3月22日、客船飛鳥II（50,142t、喫水 7.8m）が池島岸壁に着岸した。

海事関係官公署

官公署名	連絡先	官公署名	連絡先
宿毛海上保安署	0880-65-8117	高知県幡多土木事務所宿毛事務所	0880-63-2141